

アセスメント票

受付 No.1 あやのこうじ あきこ 氏 名： 綾小路 晃子（仮名） 対応職員 西海 勝男		アセスメント対応状況 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭訪問（8月24日）（ 月 日）（ 月 日） <input type="checkbox"/> 外 来（ 月 日）（ 月 日）（ 月 日） <input type="checkbox"/> 電話等（ 月 日）（ 月 日）（ 月 日）		
障 害 者 本 人 の 概 要	生活歴	<p>綾小路さんは市川市生まれ。地元の小中高校を卒業後、東京にある山の手大学の社会福祉学部を卒業。その後県内の総合病院に就職する。ソーシャルワーカーとして先輩や同僚とともに高齢者の支援をする。</p> <p>平成27年6月、同じ病院の職員3名とともに尾瀬に水芭蕉を見に行く。きれいな水芭蕉を見て、気持ちよく帰ってくる途中で友人の運転で一般道路を走行中に居眠り運転のトラックとぶつかり、近くの病院に救急搬送される。運転していた友達は即死してしまう。埼玉県の蓮田総合病院で緊急手術を行い、7月4日に千葉県の浦安市海浜病院に転院する。リハビリを行うが、人生をあきらめてしまい、意欲的にリハビリを行わなかったため重度の下肢機能障害と手先の痺れが残ってしまう。</p> <p>その後はリハビリをしても良くならなかったためと、病院での生活に疲れてしまったので自宅での生活を希望したが、両親は自分たちが高齢ということもあって自宅での生活に大反対したため、県内の5つの障害者支援施設に申し込みをする。待機中の平成28年2月に海浜病院から市川市の江戸川西病院に転院となる。</p> <p>平成28年9月、1つの施設で空きが出たため、障害者支援施設「希望の青空」に入所する。見学ではその施設はあまり気が乗らなかったが、行き場所がないこともあり、仕方なく入所することになった。</p>		
	障害者手帳	<input checked="" type="checkbox"/> 身障手帳（1種1級） <input type="checkbox"/> 療育手帳（ ） <input type="checkbox"/> 精神保健福祉手帳（ ） <input type="checkbox"/> 取得していない	年金	<input type="checkbox"/> 障害基礎年金 <input checked="" type="checkbox"/> 障害厚生年金（1級） <input type="checkbox"/> 国民年金 <input type="checkbox"/> その他年金（ ）
	生活保護の受給	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> なし		
	障害支援区分	<input type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/> 区分1 <input type="checkbox"/> 区分2 <input type="checkbox"/> 区分3 <input type="checkbox"/> 区分4 <input type="checkbox"/> 区分5 <input checked="" type="checkbox"/> 区分6		
病歴	年 月	事 項	年 月	事 項
障害歴	27年6月	頸椎損傷	年	
医療機関利用状況〔現在の受診状況、受診科目、頻度、主治医、どの疾患での受診〕 整形外科の山田先生に診てもらっている。 痺れをやわらげる薬と痛み止めを飲んでいる				
医療保険 被保険者（本人・家族） <input checked="" type="checkbox"/> 国民健康保険 <input type="checkbox"/> 健康保険 記号 番号 障害者医療： <input type="checkbox"/> 更生医療 <input type="checkbox"/> 育成医療 その他（重度障害者医療受給者証あり）				
現在使用している福祉用具： 車いす（病院貸し出し用）				
生活状況〔普通の1日の流れ〕 ※週間生活表が必要な場合は別紙に記入 本人 7時起床、8時朝食、12時昼食、15時入浴（週に1回） その他の時は病室で生活をする。 18時に夕食、テレビをみて、22時に就寝 介護者 病院入院中のため、介護者の生活は省略する。				

利用者の状況

1 生活基盤に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要 ・不要	
経済環境	問題なし	なし	不要	障害厚生年金受給中(月10万円)
住環境	段差あり	なし	不要	自宅では父と母が生活をしている。築36年の平屋住宅 [一戸建て]

2 健康に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要 ・不要	
服薬管理	一部介助	なし	不要	看護師が病室まで運ぶ。 (痛みや痺れをやわらげる薬、下剤)
食事管理		あり	要	
病気への留意		あり	要	常時痺れがある。褥瘡ができたことがある。 現在は治っているが、不安はある。
体力		あり	要	体力が低下している。

3 日常生活に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要 ・不要	
衣類着脱 (上衣) (ズボン等)	全介助	あり	要	袖を通すなど、介護職員の手助けはできる。
整容行為	一部介助	あり	要	
食事行為	一部介助	あり	要	食事用自助具を付けて自分で食べることができる。汁物は介助。
排泄行為 (排尿) (排便)	全介助	あり	要	オムツとバルーンカテーテルを使用している。
睡眠	自立		不要	
入浴行為	全介助	あり	要	機械を使った入浴(寝たまま)で週1回実施している。体が痒くなることもあり、薬をつけている。ゆっくりと入浴したい。
ベットへ移乗 (床) (車いす等)	全介助	あり	要	自分で車椅子に移ることはできない。
屋内移動	一部介助	なし	不要	車椅子に乗れば自分でゆっくりと移動することができる。
調理(後かたづけを含む)	全介助	あり	要	病院の職員が提供した食事を食べている。自分ではできない。
洗濯	全介助	あり	要	病院で行っている。
掃除	全介助	あり	要	病院で行っている。
整理・整頓	全介助	あり	要	病院で行っている。
ベットメーカー ング	全介助	あり	要	病院で行っている。

書類の整理	全介助	あり	要	母親が行っている。
買物	一部介助	あり	要	デパートなどに行ければ、自分で物を選び、 金銭を支払うことはできる。買い物は好き。
衣類の補修	全介助	なし	不要	
育児		なし	不要	結婚歴はなく、該当しない。

4 コミュニケーション・スキルに関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要 ・不要	
意思表示の手段	自立	なし	不要	普通に会話をする事ができる。会話は好きである。
意思伝達の程度	自立	なし	不要	
他者からの意思伝達の理解	自立	なし	不要	
情報伝達機器の使用	自立	なし	不要	電話などはできる。パソコンも可能である。

5 社会生活技能に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要 ・不要	
対人関係	自立	なし	不要	
屋外移動 (近距離移動) (遠距離移動)	一部介助	あり	要	平らなところはゆっくりと移動することができる。 屋外にはあまり出ていない。
金銭管理	自立	なし	不要	小遣いは自分で管理する。
危機管理	自立	なし	不要	

6 社会参加に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要 ・不要	
レクリエーション等	何もしていない	なし	不要	
趣味	音楽を聴いている	あり	要	食べ物と買い物が好きである。音楽を聴いている。
旅行	していない	あり	要	事故に遭ってからはどこにも出かけていない。 旅行は好きである。
当事者団体の活動	何もしていない	なし	不要	
各種社会的活動	何もしていない	あり	要	社会福祉関係のボランティアがしたい。

7 教育・就労に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要 ・不要	
教育		なし	不要	大学を出ている
就労	訓練等も行って いない	あり	要	将来的には可能と思われる

8 家族支援に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要 ・不要	
家族 ① 情報提供 ② 介護負担軽減 ③ 家族関係調整 ④ 社会参加	父(78歳) 母(72歳) 姉(41歳)	なし	不要	父と母は自宅で生活しているが、本人が自宅で生活できる環境ではない。母親は車で1時間かけて面会に来るが、父の認知症の心配もあり、時間はあまりない。姉は仕事が忙しくて本人の支援は難しい。

本人の要望・希望する暮らし

自分の希望はない。病院での生活より良くなればよい。

家族の要望・希望する暮らし

本人の暮らす場所がようやく見つかった。自分たちは高齢なために自宅で世話をすることができない。なんとか穏やかに施設で生活をしてもらいたい。

関係職種からの情報

担当医：手足のしびれはなかなか良くはならない。

理学療法士：やることがないのでだんだん廃用症候群となり、体が動かなくなってしまっている。早期のリハビリが必要。

看護師：褥瘡が心配である。なんとかベッドから離床させたい。

[家屋の見取り図] 持ち家 その他

トイレ、浴室位置の形状、玄関、道路までのアクセスや段差等の記入

現在は病院に入院中のため、家屋の見取り図は省略する。

120名入院可能な病院で生活をしている。北側に向いた個室でゆっくり生活をしている。

担当者所見 (注目すべき点、気になる点を含む)

綾小路さんは病院で勤務をし、さまざまな高齢者などの支援をしていた。そんな中、一瞬の事故で体が不自由となり、現在は病院の入院患者となってしまった。人生を諦めてしまった綾小路さんに対して、どのような支援をしていけばよいか。障害者支援施設は支援の方向が決まっていると聞くが、本人の要望はあまりないので、アセスメントから読み取れるニーズをしっかりと反映したようなプランを作ってもらいたいと考えている。そのためには、本人と施設のサービス管理責任者の間に相談支援専門員が立ち、具体的な個別支援計画になるようにしていく必要がある。